

【鹿追】J A 鹿追町（木幡浩喜組合長、組合員273人）の通常総会が27日、同 J A で開かれた。2021年度の農畜産物販売高は小麦が収量、品質とも良好だったことから過去最高の239億5,213万円（前年度比6.2%増）だった。

同 J A は、最近10年間は毎年、農畜産物販売高の最高額を更新している。21年度の小麦以外の畑作販売高は、ビートが糖度は低めながら収量は過去最高を記録。食用・食品用ジャガイモも好調で、前年度比21.3%増の73億8,567万円。

畜産販売全体では、生乳生産は搾乳牛頭数の増加で年間乳量が同3.5%増の12万1,000トンとなり、初めて12万トン突破。肥育牛の取り扱い頭数は伸びなかったが、畜産全体の販売高は同0.6%増の165億6,646万円だった。

経常利益は同38.2%増の4億6,840万円、当期末処分剰余金は同22.3%増の4億15万円。

22年度の事業計画では、21年ぶりにAコープ鹿追店の冷凍冷蔵機設備更新などの店舗改修、肉牛施設の哺育舎増設、トラクター整備場の拡充を盛り込む。

総会には本人16人、書面議決247人の計263人が出席した。木幡組合長は「第11次農業振興計画のスタートとなる。耕畜連携による土づくりを基本に生産性向上に努める」とあいさつした。

J A 陸別町新組合長に工藤氏

2022年6月4日 (土)

【陸別】J A 陸別町は3日、総会後に開かれた理事会で、健康上の理由で退任した西岡悦夫組合長（73）の後任に、同 J A 筆頭理事の工藤千里氏（62）を互選した。

工藤氏は1960年陸別町生まれ。帯広農業高卒。北斗牧場代表、陸別町コントラクター社長を務める。同 J A では、2015年5月から理事、21年5月からは筆頭理事。

工藤氏は同日、十勝毎日新聞社の取材に対し「組合員と対話し、意見を吸収して物事を進めるのが J A の本来の姿と肝に銘じて進めていきたい」と抱負を語った。

西岡氏は03年から7期19年間、組合長を務めたが、5月5日付で同 J A に辞任届を提出、任期を2年残して辞任した。工藤氏の任期は、西岡氏の残任期間である24年5月の総会まで。



工藤千里氏

【陸別】J A 陸別町（組合員109人）の通常総会が3日、同 J A で開かれた。2021年度の農畜産物総販売高は、長引くコロナ禍の影響を受けた20年度のほぼ横ばいとなる57億2,000万円（前年度比0.9%増）にとどまった。

新型コロナ対策として書面出席51人を含む98人が出席した。

生乳生産は4万1,890トン（同4.0%増）と過去最高を更新し、販売高は38億300万円。生乳生産4万トン台は6年連続となる。畜産販売は5,312頭（同1.7%増）で18億6,100万円。ビート、小麦などの農産物は5,100万円。当期末処分剰余金は9,400万円だった。

22年度の生産目標は生乳4万2,637トン、畜産販売5,150頭。生産振興策として生活基盤強化、飼料・資材の高騰対策を講じる。

20年度から5カ年で実施する「第7次地域農業振興計画・J A 中期計画」の一部変更案など議案7件を承認した。